



TNVN [第25回定期総会]のご報告

4月22日(日)午後1時より、社会福祉法人さぼうと21会議室に於いて第25回定期総会が開かれました。

代表の挨拶に続き、出席会員数と委任状提出会員数の確認が行われました。出席会員18団体と委任状提出会員38団体の合計56は現正会員88団体の過半数の44を超えており、規約第7条3項の規定により総会は成立した旨の報告が司会よりあり、総会の開会が宣言されました。

議長として運営委員の仁村さんが選任され、議長からの挨拶のあと、議事記録人として事務局スタッフの岡田さんが指名され、承認されました。

議題に入り、第1号議案「2017年度活動報告」と第2号議案「2017年度会計報告」の審議が行われました。第1号議案は副代表より、第2号議案は、会計から報告がありました。引き続き、会計監査より、2017年度決算は、全て適正な会計処理がなされていた旨の監査報告がありました。

出席者から第1号議案に対し、活動報告の個別案件で「東京都が希望したボランティア日本語教室でのヒアリングは終わったのか。来たのはいつか？」との質問があり、代表より「ヒアリングは行われていない。生活文化局には2014年の実態報告書を見せて説明した。都が来たのは2017年4月頃だった」との説明がありました。

又、「TNVNが作成した『保活の手引き』は良いと思ったが、これでもわからないことが多々ある」という意見がありました。

質疑応答の後、第1号議案、第2号議



案の議決が行われ承認されました。

続いて2018年度役員選出に移り、総会までと総会の場でも立候補・推薦共になく、事務局から、現役員が2018年度も留任する提案があり、異議なく承認されました。(8ページ参照)

次に、第3号議案「2018年度活動計画」と第4号議案「2018年度予算案」の審議が行われ、第3号議案は代表から、第4号議案は会計から説明が行われました。

第4号議案に関し、出席者から、予算に計上されているガイド売り上げとは何かという質問があり、事務局長より、東京ボランティア・市民活動センターが一冊700円(実費)で販売してくれているとの説明がありました。

質疑応答の後、第3号議案、第4号議案の議決が行われ、承認されました。以上で総会の全ての議事が終了し、総会は閉会しました。

総会に続いて意見・情報交換会が開

かれました。出席者の自己紹介と活動地域や活動時の問題などが報告され、①会場の確保、②区市や会によって異なる活動資金の確保、③ボランティアの高齢化などが話題の中心になりました。

又、ボランティア養成講座がない区市もあるのでTNVNで講座を開いて欲しいという意見や、都の助成金を受ける時の、都の方針と受ける側の意識のずれなどが話題になりました。

会場の確保の問題や活動資金・助成金の問題については行政への日常的な働きかけが必要と考えられ、改めて話し合いの機会を持ちたいという意見や、ボランティア養成講座については、新宿区、江東区、品川区で活動している会員から、他区市の方々も受講可なので参加されてはどうかという紹介がありました。

限られた時間の中で消化不良の感はありませんが、話題になった問題は、会員の共通の問題として話し合っていく必要があると感じました。(神)

「調査報告書・

日本語ボランティア活動

実態調査」

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

抜粋

その2

前号 (No.101) で「ボランティア日本語教室の実情」を掲載しました。今号ではボランティアとボランティア日本語教室に参加する学習者に質問した内容と結果を図表に纏めました。

なお、前回行った2014年3月の報告書の内容と比較しその傾向を記述しました。

2 学習者からの回答から

(1) あなたの国はどこですか。 (記述回答: 回答数=320人)

	人数(人)	割合(%)		人数(人)
アジア	265	82.8	中国	126
欧州	18	5.6	韓国	34
北米	13	4.1	台湾	25
中南米	12	3.8	ベトナム	21
中東	3	0.9	フィリピン	14
アフリカ	4	1.2	インド	10
オセアニア	5	1.6	ネパール	9
合計	320	100.0	タイ	6
			ミャンマー	6

43ヶ国320名の学習者から回答があり、その内8割以上がアジア圏で、この傾向は前回の調査と変わりません。

アジア圏では中国の増加が目立ち全体の4割を占めています。

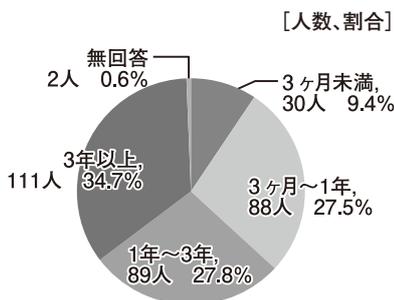
(2) 日本に来て何年ですか。 (単一回答: 回答数=320人)

学習者の滞在期間は3年未満が64.8%を占めています。

前回調査時は、3年以上滞在中の学習者が51%を占めていましたが、今回は約35%に減少しています。

一方1年以下の学習者が21%から37%と約倍増しています。

日本に来て何年ですか



(3) 日本語の勉強について

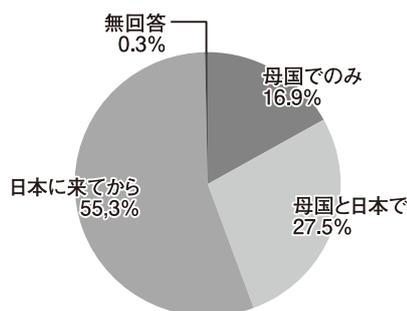
①いつから日本語を勉強していますか。(単一回答: 回答数=320人)

約55%の人が日本に来てから学習を開始しています。

前回の集計では約67%の人が日本に来てから学習を開始したと答えていました。

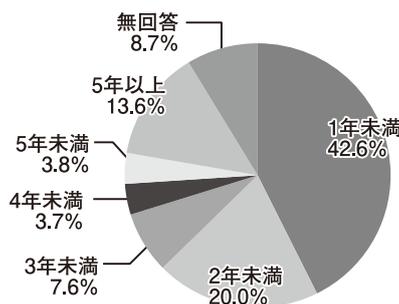
日本に来てから日本語の学習を開始した人は55%と約12%減っています。

母国と日本でと答えた人は、前回の調査では約12%だったが、今回は27.50%と約15%増加しています。



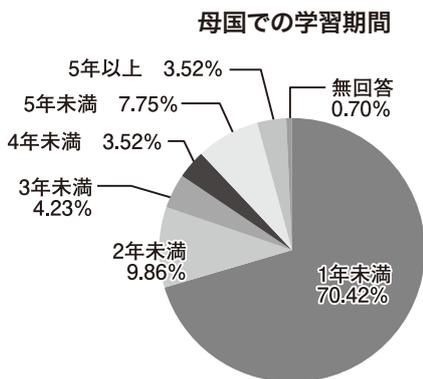
②日本に来てからの学習期間 (単一回答: 回答数=265人)

日本に来てからの学習期間が1年未満の人の割合が42.6%と前回の調査約28%より約15%増えています。



③母国での日本語学習期間（単一回答：回答数=142人）

母国での学習期間が1年未満は70.4%で前回調査の約55%に対し約15%増加しています。この傾向は前項②の結果とも関連し、研修生が増えた事と関係していると考えられます。

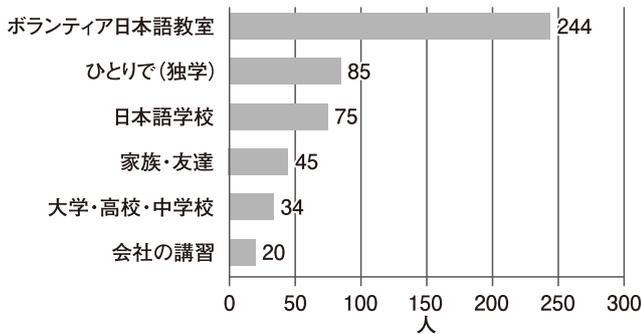


④どこで勉強（学習）していますか。（複数回答 単位人）

勉強の場所は「ボランティア日本語教室」が最も多く、学習の中心となっています。

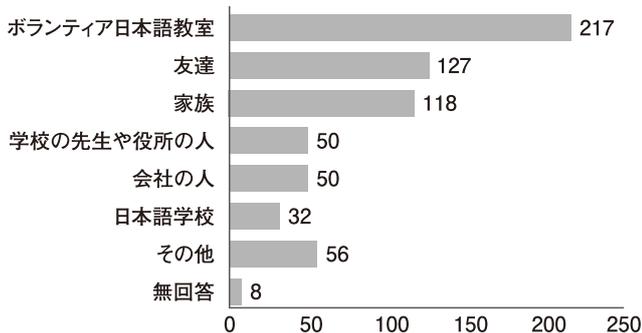
前回の調査とほとんど違いがなく面白い結果になりました。

今回の調査に会社の講習を新たに加えました。

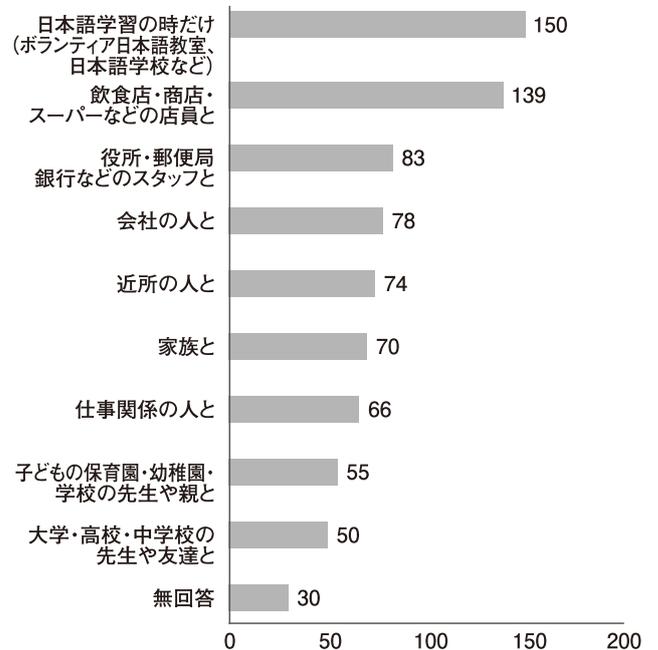


⑤日本の文がわからないときは誰に聞きますか（複数回答 単位人）

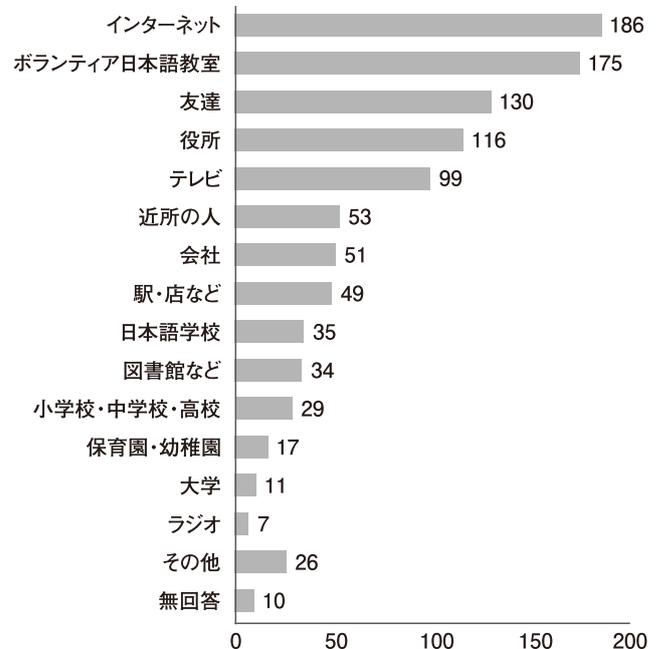
「ボランティア日本語教室」で聞くと答えた学習者最も多く、前回と変わりません。



⑥日本語で、毎日か時々、誰と話をしますか（複数回答 単位人）



(3) 生活に必要な情報をどこでもらいますか。（複数回答 単位人）



「インターネット」が最も多く、次いで「ボランティア日本語教室」「友達」となった。

前回の調査では「ボランティア日本語教室」が最も多く、次いで「インターネット」だった。

★そのほかの内容：家族、新聞、交流協会、ハローワーク、スマホ、チラシなど

「日本語のキマリと 学習者に必要な日本語」 その2

日本語教師 金子広幸

紙上
講座

前号では「ウルサガタ」が気になる日本語の事象をたくさん書きました。(言わせてもらっちゃおう！という感じがあれば「書かせていただきました」がいいかもしれません)。

どの言語にも母語話者の世界で求められるものは確かに歴然とあります。

ただ、反面、それをゆるく包もうとする考え方も日本語教育の場では必要だと感じます。これは、もちろんキマリに反することを許容するというではありません。

この冬、那覇を訪ねた時のことです。那覇のバス路線は複雑で、表示や地図を見てもわかりにくく感じました。私が東京の人間だからか、見てもわからないと、「人に聞かなくてもわかるように書け！」と思ってしまうのです。そこに長身の若い外国人の男性が来て、到着するバスの乗車口が開くたびに、運転士さんに「ウラソエ シヤクシヨ、イキマスカ？」と明るく大きな声で聞いているのです。よく見ると沖縄の人も、気軽に聞いています。

「人に聞いてもいいんだ！」とその時悟りました。東京では誰かが与えてくれることが当たり前になっているのに、那覇ではちゃんと働きかけて情報を得るのです。聞かれた運転士さんも、時には「しまくとぅば(島言葉)」まじりに、それでも明確に答えていました。

東京人には何とも新鮮な光景でした。

行く方向が一緒だった私は、彼に話しかけ、浦添市役所まで楽しく乗って行ったのですが、アメリカ人の彼が知っていた日本語は、何と！3つだけで、「ありがとうございます」「こんにちは」の次は「●●●行きますか？」でした。「私は沖縄に来て1週間だけど、どこかに行くにはこれだけで十分！」と言っていました。はっとしました。

私もパリで最初に覚えたフランス語は「これはペンです」でもないし、「●●ください」でもなく「Sortie」という言葉でした。地下鉄を降りると、まず探す表示が「出口」だったからです。

長い間、英語と戦ってきた私ですが、実際に英語を使うことになった時、私が辞書で調べた単語は「洗濯ばさみ」でした。

若い頃、中国語を少し学んでから台湾に渡った私。最初に話す言葉は何か～、などとワクワクしながら台北の街に出て行ったのですが、ポ

ソツと口から出た中国語は「不要加香菜！」。心を込めて何かを言いたかったのに、台湾で初めて言った中国語が「シャンツアイを入れないでください！」で、後でがっかりしました。

…何もがっかりしなくてもいいのにね。本当に必要なことを当意即妙に言えたのだから。おかげで、私は苦手なシャンツアイの入っていない麺を食べることができ、言語的課題をクリアすることができたのですからね。

教師から言えば「初級くらいはさらっておいたらいいよ」と言いたい場面なのですが、生活している立場から言うと、目の前にぶら下がっている課題から解決して行ったほうが、確かに効率的となる場合もあります。

私のクラスで最近増えているのは、学校やクラスなどで日本語を勉強していない人です。いわゆる独学ですが、自分でネット動画やゲーム、アニメ、映画の場面をしっかり把握していて、こなれた日本語の言い方をさらっと使うのです。

たまには、文法はめちゃくちゃ、文字については、漢字はおろか、カタカナも全くできない、にもかかわらず、織田信長については、一晩日本語で語れるという人もいますが、この人たちは自分なりの方法で

習得していて、少なくとも日本に来るまでの自分の身の回りの日本語の用事は、これで足りていたのでしょうか。そういうタイプの人の日本語学習姿勢を、クラスの中に当てはめるのは、教師もその学生さんも大変ですが、多くの人は、自分に必要なものを上手に見つけていきます。

ウルサガタの皆さん。こんな学生さんが目の前に現れたらどうなさいますか。

ウルサガタよろしく「文法は大切!」「漢字を毎日20回ずつ書いてきなさい!宿題!」などと縛りますか。

私はできるだけ学習者の「出くわす状況」を把握して、似ている場面の課題を、宿題に出すことにしています。例えば、鉛筆で漢字仮名交じり文を書くより、スマホで日本語が綴れたほうが、友達ともやり取りできて楽しいだろうと思ったので、昨今流行りのLINEで、その日のコメントを送ってもらったりします。また、旅に出る学生には葉書を渡し、旅先で書いて送ってもらったりもします。もちろん文法や語彙・漢字や構文を確認する宿題もあって、ちゃんと実施していますが、出来上がったLINEのコメントや金子に届いた葉書も本人に返し、学習成果物としてポートフォリオに入れてもらいます。

また、違うクラスですが、就職やアルバイト、大学院受験の準備をする人もいますので、履歴書やエントリーシート・研究計画書を一緒に書いたり、敬語を使っての自己アピールや面接シミュレーションをしたり、会社訪問のための話題作りをしたり、改めて自分発見してもらったりしています。この辺まで来ると、日本

語の問題と言うよりも、個人としての社会参加準備で、内容はぐっと現実味のあるものになります。

学生たちの生活を見させてもらって、必要なものを揃え、しかも並行してウルサガタの伝えたいことも混ぜる。なかなか難しい作業です。

時代や状況に合わせて最も適当な表現を選びたいと考えれば、金子も「やばい!」を使うときがあります。シンガポールの友人が送ってくれた、海老味のスナック。小さな春巻のような形をしていて、それを口に入れて、味わった瞬間、私の身の回りにいる学生達が言っている場面を思い出し、同業者と顔を見合わせて、「あ、やばい!これ!」と言っていました。

心の中では、「食べ過ぎてちょっとお腹周りが大きくなっている自分の様子」を想像し、また、「食べ終わった後もその味が忘れられなくなってしまっていること」を想像し、思わず「やばい」と言ってしまったのです。

前号の、美味しいものを食べて「やばい!」も、実は「(病みつきになったら)やばい!」であり、感動した映画を見て「やばい!」も「(泣きそうで)やばい!」なのですよ。

世の「キマリ」にうるさい「ウルサガタ」の皆さん。罪深い私をお許しください。でも、この心情を吐露するにはこのヤバイ以外の言い方が見つけられませんでした。

最近の私のクラスには、交換留学生、留学生、就職希望者が

混在していて、彼ら一人一人が求める日本語の幅は広がるばかりです。というより、そうあらねばならないのです。普段の交流や、アルバイトや就職活動で、生の日本語社会の日本語に触れてきている学習者たちは、クラスの中で扱われている日本語に違和感を感じ始めています。オリンピックに向けて、短期で日本に来る人もますます増えることでしょう。

地域で外国人市民の交流・支援をなさっている方も同じことをお感じのはずですね。

だからと言って、洪水のように日本語シャワーを学習者に浴びさせてもいいというわけでもありませんが、何でもキマリに基づき、教科書通りにする必要はここにはありませんね。

彼らが求める日本語はますます異なってきます。教師としては、ウルサガタと一緒に「キマリ」にこだわりたいという気持ちもありますが、さらに切り込んで、「この人がどう使うか」ということに心を砕いていきたいと考えます。





会話レッスン前の漢字クラス

やさしい日本語 (江東区)

松川彩子

「やさしい日本語」は、パルシティ江東という施設で毎週金曜日午前に日本語教室活動をしています。平日の午前中という時間帯なので学習者は主婦・主夫が多いですが、時には留学生や仕事をしている人が時間を空けて勉強に来てくれます。

パルシティ江東は江東区の施設で唯一保育室があります。「やさしい日本語」が確保できる保育人数は決して十分ではありませんが、乳幼児を持つお母さん・お父さん学習者から安心して

子供を預けられ、日本語の勉強に集中できると言ってもらっています。

学習者一人一人の生活環境、状況、条件などは様々で、その中で「いま必要とする」日本語も千差万別です。忙しい時間を縫って勉強に来てくれる学習者のニーズ、要望、思いや希望も多種多様です。私たちボランティア9人は学習者の声に少しでもきっちりと「応えたい」「寄り添いたい」と切磋琢磨(ただ右往左往しているだけ?)しています。こうしてボランティア日本語教室の運営やら活動を書き連ねると大変さばかりが目につきます。が、現場は(中原中也の世界のように)ゆあーん

ゆよーん ゆやゆよん、としています。

この緊張感の中のゆったり、ほんわかした空気はなんと言っても学習者もたらしてくれるものです。縁あって日本に来たからには地域や社会に早くなじんで、自分の周りの日本人、ほかの国の人とも幅広く楽しく過ごそうという明るく前向きな気持ちが、私たちボランティアを励まし支えてくれているからだと思います。

帰り際に学習者たちが声をかけてくれます。「今日の勉強も楽しかったです。また来週！」

学習者の皆さん、こちらこそ「ありがとう、また来週 🍷」

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■ 共に学び、高め合う心を大切に！そして楽しく！

「南多摩日本語の会」 (日野市・多摩市)

代表 長沼 ゆり 執筆:宮部 安男

「南多摩日本語の会」が発足してから今年で17年目を迎えます。これまで日本語を学びたい外国人に対するボランティア活動を続けてきました。

現在は概ね学習者40名、教師60名で日野市、多摩市を中心にして活動しています。

学習者は中国、韓国、フィリピン、ベトナム、インドネシア、アフリカの人たちが多くなっています。

この間、活動するうえで、最も大切にしてきたのは、次の二つです。

- ①学習者と教師という画一的な関係ではなく、それぞれが共に学び、高め合い、継続すること。そして何よりも楽しく学習できること。
- ②母国語が異なる、文化・習慣が異なる人同士がそれぞれを認め、多様性を尊重すること。

そしてこのことを実現するためにいくつかの仕組みを作っています。

- (1) 学習はマンツーマンを基本 (Face to Face)

学習者は学習の目的、文化・習慣、日本語能力が異なっているので、一人一人の状況に応じて指導しています

- (2) 地域別の4か所の教室によるマンツーマン学習
- (3) 教師自らのスキルアップのための勉強会 (1回/2か月)
文法や基本文型、日本の伝統文化などをテーマとして教師それぞれが持ち回りで講師となり、また必要に応じて外部に講師をお願いして、学ぶ心を忘れないようにしています。
- (4) 風通しを良くする交流イベント
 - ①新年会・・・それぞれの国の郷土料理を持ち寄り、教室中心から会全体の懇親にかえて、日ごろ接点の少ないメンバー同士、和気あいあいの会話がはずみます。
 - ②(春) 自然や草花を愛でる近郊の散策と日本の歴史



- ③(夏) ビール工場見学と試飲
- ④(秋) 日本文化の体験(お茶会、着付け)
バーベキューパーティ・・・野に出て、食欲の秋を实践
- ⑤会員をつなぐニュースレター発刊 (1回/2か月) (通算60号超え)
会員の声を幅広く集め、会員が日頃感じている思いを共有化したり、日本語を勉強する上でのヒントを得たり、日本で生活する知恵を得たりしています。
会の活動をよりよいものするための地下茎のような大事な役割を担っています。
今後も学習者と教師が心をつないで成長していきたいと考えています。

学習者の声

西瓜を育てた経験

劉怡君(リュウワイージン)
JCA千歳船橋



夫の転勤で2年半前に台湾から来ました。JCA千歳船橋の水曜夜クラスで2年くらい日本語を勉強しています。台湾では小学校の先生でしたが、今はホテルでアルバイトをしています。日本での経験を書きました。

去年の夏、友達からもらった西瓜の苗をバルコニーで育てました。以前友達と会った時、私が植物を栽培することが好きだと話したら、西瓜を育てるセットを買ってくれたのです。苗だけじゃなくて、大きいプランターや、培養土や、肥料など、いろいろな物を持って来てくれて、ちょっと驚きました。そして、バルコニーの西瓜のミニ畑が始まりました。

時間が経つと西瓜は元気に成長して、大きい葉がたくさん出て、バルコニーの手すりは蔓で覆われました。苗の説明書によれば、7~9キログラムの西瓜ができるそうです。私と主人は毎日水をやって、楽しみにしていました。たくさんの花が咲いたのに、西瓜の実が一つだけ育ったのは問題ではなく、西瓜の形が少しおかしいので、びっくりしました。これは本当の西瓜じゃないと疑い始めました。

実が大きくなって、この西瓜を取って、切って見ました。ところが、私達が一生懸命世話して育てたのは実はひょうたんだと知って、とてもがっかりしました。説明書には西瓜と書いてあったのに、ひょうたんになったのは謎で不思議でなりません。でも、初めて果物を育てたのが楽しく、良い経験になりました。結局このひょうたんは別の友達にあげたところ、友達は炒め物にして、食べたそうです。

ボランティアの声

「理解しやすい日本語の表現」
日本語ボランティアとして考える

福村 稔
(JCA千歳船橋)

近年日本に在留または在住されている外国人が増加している様子で、我々の生活圏内の商店街でも、外国人をよく見かけます。

その様な外国人の在留目的は、就労、学術研究、就学、研修、結婚など様々で、それぞれの目的に応じ日本語学習を行っていると思われます。

然しながら、日本語の習得が不十分で日常生活に不自由、困難を感じておられる方も多いようで、例えば、電車の車内・駅構内、色々な催物会場など外出先での案内放送や掲示板表示の案内が日本語のみで、良く理解できない場合が多々あるとの話を耳にする事があります。

そこで、非常時、即ち、各種の災害発生時並びに各種公共施設や公共交通機関での事故発生時における、災害の状況・避難情報案内のアナウンスや掲示板表示は、そのような状況に遭遇した外国人にも正しく伝わるように、弘前大学教授佐藤和之さんの研究グループが提唱している分かりやすい「やさしい日本語」で行なわれる配慮が望ま

しいと思われま

しいと思われま。例えば、「危険」は(危ない)、「警戒する」は(気をつける)、「確認する」は(確かめる)、「余震」は(後で来る地震)等と言い換えて情報を正しく知らせる工夫です。

上記の様な非常時に伝達情報を英語や中国語に翻訳して伝えるには時間が掛かりますので、日ごろから「やさしい日本語」(日本語能力試験3級程度)に言い換えての表現を検討されては如何でしょうか。

日本では地震、台風、水害など多くの自然災害の発生が予想されること並びに2020年に開催の「東京オリンピック」関連で、今後ますます訪日外国人が増加することが予想されますので、是非この様な配慮が望ましいと思われま



● TNVN 2018年度役員・スタッフ

2018年度の役員・スタッフ・運営委員が決まりました。

宜しくご支援・ご協力をお願いします。

本年度も会員の皆さまと情報・意見交換会等を通して交流を深めて参ります。

○役員・スタッフ

代表	梶村 勝利	早稲田奉仕園日本語ボランティアの会 (新宿区)
副代表	神 歩	江戸川にほんご交流会B (江戸川区)
事務局長	林川 玲子	ビバ日本語教室 (港区)
会計	矢崎 理恵	社会福祉法人さぼうと21 (品川区)
会計 (日常)	林川 玲子	ビバ日本語教室 (港区)
会計監査	山内 眞理	多摩市国際交流センター日本語セミナー部 (多摩市)
スタッフ	大木 千冬	町田日本語の会 (町田市)
スタッフ	岡田 美奈子	やさしい日本語 (江東区)
スタッフ	小川 伶子	初歩日本語 (練馬区)
スタッフ	床呂 英一	まちだ地域国際交流協会 (町田市)
スタッフ	松川 彩子	やさしい日本語 (江東区) 在宅 HP英文問合せ担当
スタッフ	大滝 敦史	在宅 HP管理

○運営委員

次の6名の方に運営委員をお願いしました。

坂本 弘一	かけはし (足立区)
渡辺 紀子	まちだ地域国際交流協会 (町田市)
小野美恵子	グッドナイト日本語教室 (江東区)
仁村 議子	NPO法人IWC国際市民の会 (品川区)
中山 眞理子	NPO法人多文化こども自立支援センター (中野区)

◆ TNVN 第25回総会に参加された団体は以下の通りです。(区市名)

江戸川にほんご交流会B (江戸川区)	プラチナ日本語教室 (港区)
にほんごクラブ・ゆう (江戸川区)	にほんごの会くれよん (目黒区)
やさしい日本語 (江東区)	多摩市国際交流センター日本語セミナー部 (多摩市)
NPO法人IWC国際市民の会 (品川区)	日本語ボランティア翼の会・夜の部 (羽村市)
社会福祉法人 さぼうと21 (品川区)	府中国際交流サロン (府中市)
スペース・アイ (渋谷区)	まちだ地域国際交流協会 (町田市)
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会 (新宿区)	町田日本語の会 (町田市)
JCA千歳船橋 (世田谷区)	東京YWCA「いちごの部屋」(武蔵野市)
初歩日本語 (練馬区)	
ビバ日本語教室 (港区)	

◆新会員紹介 ICN駒場日本語教室 (目黒区)

Column 「後悔、先にたたず」

「ありがとうございました」!!。

ハッとして、Aさんの顔を見てしまいました。なんと迂闊だったでしょう。Aさんはスカイプを使って仕事をしている中で知り合った日本の男性と結婚した、フランス人形のような女性です。多分お付き合いしている中で覚えた日本語です。男性のような低い声が、かわいい彼女の口から出る日本語!!以前にもとても苦労した事があったのに…。Aさんに会った2か月前に、伝えておくべきでした。何年か前の事です。夫が日本人の中国女性

Bさんは50代半ばで、やはり男性のような声で話します。本人も自覚して困って一生懸命直そうと努力しました。久しぶりにお会いするとご主人のような男性的な話し方になっています。60代半ばになったBさんは、気にしながら暮らしています。

Aさんはまだ若い上、いずれはお子さんが出来、子育てをする中で困らないようにアドバイスを続けて行くつもりです。お会いした当初にすぐ気をつけてあげるべきでした。後悔先にたたず!! (Ogawa)



TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名:東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数 (2018年5月11日現在)

正会員：88団体

個人協力会員：14名

賛助会員：3団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理

◆レイアウト／美巧社